第３９回　歴史＆ハイキング例会　実施報告書

「チバニアン」「市原歴史博物館」見学

２０２３年３月１５日

当番世話人　　住田　勝治

第３９回歴史＆ハイキング例会の３月１５日は、直前まで寒波又コロナ感染予防の対応等心配事も有りましたが、幸いにも好天に恵まれ、１４名の参加で無事実施することが出来ました。

☆今回の企画は

①チバニアン（国指定天然記念物）現地見学

・”チバニアン”って何？

・”GSSP”ってどんなもの？

・地磁気の逆転ってどういうこと？

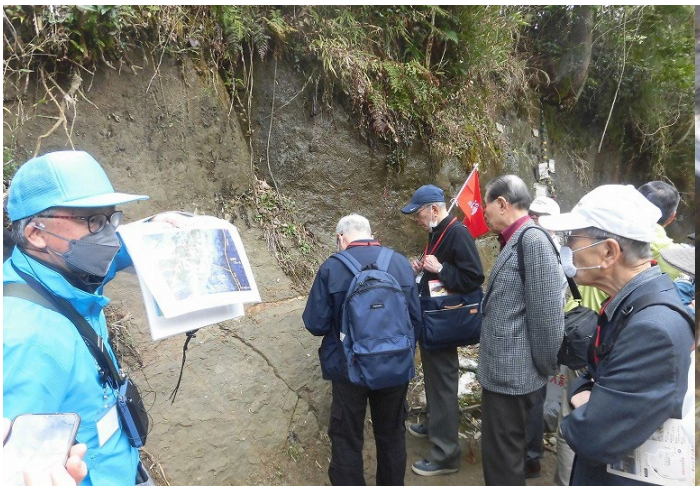
②市原市話題の Museum 見学、目下県内でダイナッミクな街づくりが進む、市原の歴史とエネルギーを理解し学を主眼に企画してみました。

・チバニアンセンター前で

※参加者（敬称略）：上段左・田代　周・住田勝治・牧田賢二・小澤敏宣・宮地秀幸・湯浅尋夫・白岩仙一
山田昌之・藤井弘道

：下段左・六角　学・櫻井　實・野田　佑・岩崎正憲・平木行雄　　１４名

☆市原市を南北に流れる養老川沿いには、約 77 万年前に最後に起きた地磁気の逆転現象の記録がある貴重な地層が残されています.



地磁気逆転現象とは地球が持つ地磁気の、Ñ極とＳ極が何らかの理由で数万年～数十万年に反転する現象です。

この時代は(約 77 万年前～12 万 9 千年前・新生代第 4 世紀中期)、長らく固有の名称のない空白の時代でしたが、「地磁気逆転の地層」による境目が決め手となり、2020 年 1 月に国際地質化学連合の承認を得て、このチバの時代を意味する「チバニアン期」と命名。

地球の歴史を区切る「地質年代」に初めて日本の地名が付いたことには記憶に新しいところです。
このチバニアン期の由来となった「地磁気逆転の地層」を含む「養老田淵セレクション」は、地球 45 億年の歴史においてかなり新しい時代（とはいっても 77 万万年前）の深海の地層です。
水深 500 メートルから 1000 メートル級の深海が地上に露出したもので、目の前に見られる場所は世界的にも珍しいものだそうです。
現在、当地では公園化プランが決定し、研修施設を隅研吾氏設計で 4 年後完成を目途に進められています。
近い将来観光の有望な目玉として期待されます。

次に、人々が太古から市原に暮らしてきた「証し」がここにある・・。
そんな旧石器時代から近代にわたる「いちはらの市宝」が集結する「市原歴史博物館」
（昨年 11 月 20 日に開館）に向かう。

・市原歴史体験館内で

館内を学芸委員から、旧石器時代から縄文時代、そして奈良時代には上総国の国府として国分寺が置かれた重要な場所で、近代になると、養老川を起点に人とモノの交流が盛んになった。
戦後には臨海部の埋め立てによる工業地帯が生まれ、今の市原市へと変わった。
そんな約 3 万 5 千年の軌跡の説明を受ける。　　以上